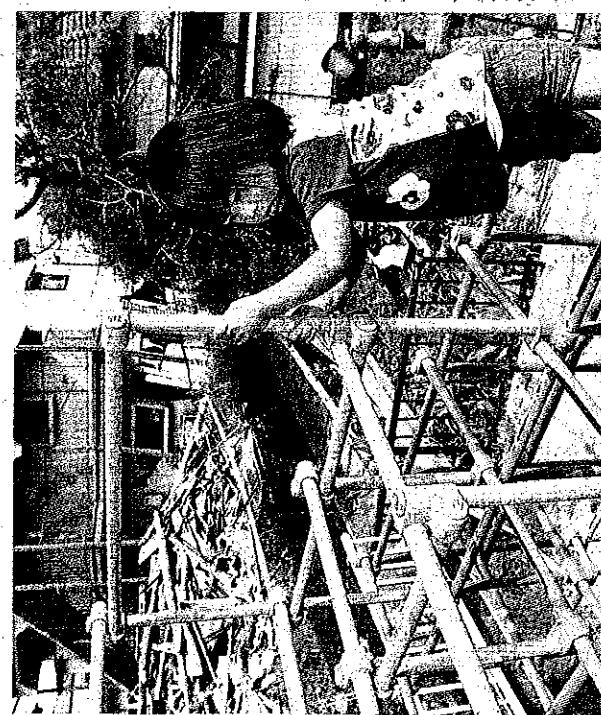


熊本日日新聞

発行所 熊本日日新聞社 〒860-8506 熊本中央区世田町172 会員登録 (096)361-3111 ©熊本日日新聞社2016年

2016年(平成28年)
7月15日 金曜日

益城町の認可外保育所「保育園こころ」で、遊具で遊ぶ子ども。周囲には地震で倒壊した家屋のがれきが残る=1日

熊本地震で被災した認可外保育所が施設を復旧できず困っている。認可されなければ国から補助金を受け取れるが、自力で直すしかないからだ。しかし、待機見童対策で認可外保育所を始めたのは政府。地震直後は、一時閉鎖された認可外保育所を代わって子どもを受け入れた所もあった。地域の保育を支える施設への支援策が問われている。

保育所や介護施設などが被災する中、国から「社会福祉施設等災害復旧費国庫補助金」が出る。認可保育所の場合、工事費など最大4分の3が補助される。一方、設備や保育士の数などが国基準を満たしていない認可外保育所は対象外だ。厚生労働省は、「そもそも社会福祉施設には当たらない」と説明する。「修理費用を販賣しない」地震後、園児が減り運営が厳しくなった。県内には139の認可外保育所があり、県には施設の損壊、窓ガラスの破損といった報告や支援相談が次々と寄せられている。

ここでは、住宅の多くが全壊した街の中、アールで遊ぶ子どもたちの歡喜が響く。しかし、建物には亀裂が多く、基礎を支えるアーチ壁も大きく傾いている。修理には100万円以上かかるところ

受けられず 受付金補助

ここでは地震後も、安全な部屋を使って運営を継続。5月にかけて認可保育所の閉鎖で行き場をなくした子ども、休校中の小学生ら、多い日で10人以上を無償で受け入れた。川口まり子園長(55)は、県担当者から「国の補助がある」と聞き、一時は期待した。だが「認可外は対象にならない」と元正の電話を受け落胆した。45人の園児は、町外避難などで約30人に減少。経営難の不安もある。「自費だけの修復は苦しい。災害時は平等に補助してほしい」と訴える。

熊本市西区の「げんきの森」とも園には、施設の屋根瓦が剥がれ落ち、敷地を闊たばかに倒れた。大林和平園長(56)は「園園も考えたが、保護者を困らせるわけにはいかなかつた」。4月下旬、近所の会員事務所を借りて受け入れを再開。瓦の張り替え、雨漏りの修理など応急整備を済ませ、5月中旬に元の建物に戻った。

本格的な修理はこれからだ。熊本市の女性職員(39)は「娘(5)」をここに預け、避難所運営などに従事。「閉園になつていれば、行き場がなかつた」と心配する。

早子ども未来課の担当者は「国は待機見童対策として整備、運営費を交付し、認可外を増やしてきた。災害時になつて見捨てるのは無責任だ」と批判。国の補助を求めている。

全国保育団体連絡会の実方伸子副会長(58)は、「認可外に頼る家庭のためにも、分け隔てのない支援が理想」と話す。

認可外保育所

地震復旧に岸上